

# SHIMA 月刊ニュースレター

モーリシャス

2025 年 11 月



## \*\* 主なポイント \*\*

政治: 与党連合 (Alliance du changement) 内の内部緊張

外交: マクロン仏大統領のモーリシャスを訪問

経済: モーリシャス、2026年米＝アフリカビジネスサミット開催国に

文化: ナターシャ・アパナー氏がフェミナ賞とゴンクール・デ・リセアン賞を受賞

## 政治

### [国内]

#### ● 政府内の緊張



(写真提供: DefiMedia)

数週間にわたる政情不安の中で、与党連合「変革のための同盟 (Alliance du changement)」からの離脱が噂されていたベランジェ副首相兼MMM党首 (Mr. Paul Berenger) は、11月17日にボー・バサン／ローズ・ヒル市庁舎で開催された中央委員会会議を経て、党員と共に政府内に留まることを発表。ベランジェ副首相は、この選択はラングーラム首相兼労働党党首 (Mr. Navin Ramgoolam) との長時間にわたる協議と主要合意を経てなされたと強調。合意事項には選挙制度改革、金融犯罪委員会に代わる国家犯罪対策庁の創設、国営航空会社であるモーリシャス航空の将来、薬物・刑務所・警察政策が含まれる。

#### ● 選挙制度改革に関する公聴会

選挙制度改革は、2026年1月に始まる政治シーズンの議論の中心となる見込みだ。憲法審査委員会の設置は選挙制度改革から分離されたと報じられており、ラングーラム首相はこの問題について国民協議を開始したい意向。

この改革は選挙制度の進化を目指す。具体的には、議会選挙における候補者の民族表明義務の廃止、「ベスト・ルーザーズ」制度の廃止と比例代表制導入、議会における女性議員の増加、政党資金調達に関する法案の提案などが含まれる。政府は憲法改正とこの改革法案の可決に必要な絶対多数 (66議席中59議席) を議会で確保している。

2025-2029年政府プログラムの一環として、政府は12月2日に選挙制度改革推進のための提案募集を開始。政党、学術界、モーリシャス国外在住者、労働組合、NGO、市民社会組織、一般市民を含む全ての関係者は、首相府へ提案・提言を提出するよう招致されている。

## ● サター・ハジ・アブドゥラ氏を逮捕



(写真提供:IONニュース)

グラント・ソーントン社の最高経営責任者(CEO)であるアブドゥラ氏(Mr. Sattar Hajee Abdoula)は、2020年3月にモーリシャス航空から支払われた369万6000ルピーの手数料がグラント・ソーントンの銀行口座に預け入れられた件に関連し、11月19日に資金洗浄の暫定容疑で逮捕された。同氏は、2020年4月から2021年9月にかけて、COVID-19パンデミックによる麻痺状態と相まって業績不振に陥ったエア・モーリシャスが取締役会の決定により自主管理下に置かれた後、2020年4月に同社の共同管理者に任命されていた。この計画に基づく業務に対し、同氏は1億4100万ルピー相当の報酬を受け取ったと報じられている。

## ● モーリシャス航空新会長の任命

11月28日、エア・モーリシャス株式会社取締役会は、G.O.S.K. S.C.の称号を持つディールンドラ・クマール・ダビー氏(Mr. Dheerendra Kumar Dabee)を新会長に即時任命したと発表。この任命は、10月23日にキショア・ビーグー氏(Mr. Kishore Beegoo)が辞任したことを受けたものである。

## ● 道路交通法改正法案 - ドライバー向け新法

11月28日、閣僚評議会は罰点制度の再導入を主な目的とする道路交通法改正案の国会議会への提出を承認した。本制度は道路利用者の保護強化と安全な道路環境の促進を意図する。法案草案はさらに、運転者間の責任ある運転文化の醸成を目指す。加えて、交通規則の遵守向上を確保する枠組みを提供する。

## [外交・国際関係]

## ● マクロン仏大統領、モーリシャスを訪問



(写真提供:News Moris)

11月20日から21日にかけて、フランスのエマニュエル・マクロン大統領(Mr. Emmanuel Macron)はモーリシャスを公式訪問した。モーリシャスに到着した際、マクロン大統領はラングーラム首相をはじめとするモーリシャス政府高官らによって出迎えられた。ゴクール・モーリシャス大統領(Mr. Dharam Gokhool)の表敬訪問およびレデュイの大統領公邸における儀礼交換の後、マクロン大統領はコーダン・アート・センターへ向かい、経済開発総局(EDB)とフランス大使館が主催する、仏モーリシャス協力、イノベーション、投資をテーマとしたビジネス界との意見交換会に参加。マクロン大統領はまた、インド洋におけるプラスチック汚染調査を実施中の「プラスチック・オデッセイ(Plastic Odyssey)」号を視察した。

訪問初日はその後、国民議会でのモーリシャス政府との会議と国賓晩餐会に出席。11月21日、マクロン大統領はパンブルムス植物園での献花式に参加し、ポートルイスで協力協定に署名、モカのテルフェアにあるフランス大使館新庁舎の開所式に出席。マクロン大統領は南アフリカで開催されたG20サミットに出席するためモーリシャスを離れ、その後、アンゴラとガボンを訪問した。



(写真提供: L'express.mu)

今回の訪問の主な成果は以下のとおり:

- 開発研究所とブルーエコノミーに関する協力、フランス開発庁(AFD)および EDFと持続可能な開発目標を支援するための再生可能エネルギー、持続可能な水管理、エネルギー移行に関する FEXTE パートナシップ、ならびにフランス語によるバイリンガル教育のパイロットプロジェクトに関する覚書の署名。
- 持続可能な水管理に関するフランス開発庁(AFD)との協力協定: インフラの近代化、ガバナンスの強化、社会・環境・ジェンダーの考慮事項の統合のための2億ユーロのAFD融資、約束済みの200万ユーロのEU無償資金、1億2000万ユーロの投資プログラムの準備による国家改革の支援。
- エネルギー移行に関するAFDとの協定: 2035年に再生可能エネルギー割合60%とする目標への支援、12月に開始するEDFレユニオン社の支援による電力網の近代化、中央電力委員会のデジタル化、グリーンクレジットライン、Proparco による資金調達。70 万ユーロの技術プログラム、4,000 万ユーロのAFD融資、1,000万ユーロのEU無償資金協力によるパッケージ。

### ● ディエゴ・ガルシア及びチャゴス諸島に関する法案が英上院で審議中

11月4日、チャゴス諸島の主権をモーリシャスに移管する英モーリシャス協定批准法案が、英上院での否決の恐れを受けて労働党政権により一時保留となった。政府は上院で過半数を占めておらず、自由民主党が保守党と共同で反対票を投じることを懸念したため、チャゴス諸島民コミュニティとの協議問題での敗北を避けるため、法案を一時撤回することを選択。同コミュニティは協定とチャゴス諸島の主権問題について依然として意見が分かれている。

11月11日、上院はディエゴ・ガルシア法案の審議を再開し、11月18日から25日にかけて委員会再審議に付す動議が採択された。再審議では、チャゴス諸島民と

の協議・代表権に関する懸念に加え、モーリシャスが発表した将来の海洋保護区を含む環境面での約束事項が審議対象となった。11月14日、グローバー・モーリシャス司法長官 (Mr. Gavin Glover) はロンドンを訪問し、条約の二つの点(チャゴス諸島民の再定住とチャゴス諸島民信託基金の管理)に関するモーリシャスの立場を提示。グローバー長官はまた、モーリシャスが信託基金委員会にセーシェル在住のチャゴス諸島民を参加させることを検討中であると明言した。

11月25日に終了した法案の90項目の修正案に関する上院の討論には、20名以上の発言者が参加。法案の次の段階は、12月18日提出予定の国際関係・防衛委員会報告書と、1月5日予定の採決。これに続き、1月6日に第三読会が実施予定。さらに、上院国際関係・防衛委員会は、モーリシャス、セーシェル、英国在住のチャゴス諸島コミュニティのメンバーを対象にオンライン調査を実施している。これは、世界中のチャゴス諸島民全体の意見や見解を収集し、チャゴス諸島コミュニティとの協議不足に関する過去の批判に対応するためである。

### ● ブラジル・ベレンで開催されたCOP30へのモーリシャスの参加



(写真提供: ル・モーリシアン紙)

ラムフル外務・地域統合・国際貿易大臣 (Mr. Ritesh Ramful) は、11月10日から21日までブラジル・ベレンで開催された気候変動枠組条約第30回締約国会議 (COP30) にモーリシャスを代表して出席。

11月17日のハイレベル会合での演説で、大臣は国際社会に対し、法的拘束力を持つ気候条約であるパリ協定から10年が経過したにもかかわらず、約束された努力が十分に行われていない旨のメッセージを発



信。また、国際司法裁判所が示した勧告的意見は、排出削減や緩和・適応支援を通じて気候システムを保護する国家の法的義務を強化するものであると強調。大臣はさらに、強化された国際連帯の必要性、とりわけ気候変動の影響に特に脆弱な小島嶼開発途上国(SIDS)との連帯を強調した。

会合の傍らで、大臣は英国小島嶼開発途上国(SIDS)特使ヘミングス氏(Mr. Tim Hemmings)との二国間会談を行い、その後、小島嶼国連合(AOSIS)議長国であるパラオ代表团、および英連邦事務局と会談。さらに、モーリシャスとイタリアの間で持続可能な開発プロジェクトに関する協力に関する覚書が署名された。

### ● マダガスカル・モーリシャス二国間関係

マダガスカル政府は、11月8日にアンタナナリボで開催された閣僚会議を受け、ヴィタル駐モーリシャス大使(Mr. Albert Camille Vital)を解任。この決定は、ラバトマンガ氏(Mr. Mamy Ravatomanga)を巡る外交的緊張と論争の中で下された。複数の情報源によれば、ヴィタル大使はラバトマンガ氏のレユニオン島への医療移送を要請したが、この要請は最終的にマダガスカル当局によって拒否された。

### ● ゴクール大統領、ルアンダで開催されたEU-AUサミットに出席

ゴクール大統領(Mr. Dharam Gokhool)は、11月24日から25日にかけてアンゴラのルアンダで開催された第7回EU-AUサミットにモーリシャス代表として出席。同サミットには欧州連合(EU)およびアフリカ連合(AU)加盟国の首脳が参加。ゴクール大統領はルイス・ファルカオ・ピント・デ・アンドラーデ・アンゴラ青年スポーツ大臣(Rui Luís Falcão Pinto de Andrade)やピレイ・セーシェル副大統領(Sebastien Pillay)と会談。サミット初日の国家元首・閣僚会議において、ゴクール大統領はアントニオ・グテーレス国連事務総長(Mr. Antonio Guterres)、ジョアン・ロレンソ・アンゴラ共和国大統領(Mr. João Lourenço)、ジョルジア・メローニ・イタリア首相(Ms. Giorgia Meloni)らなどとも会談し、多国間協力の推進やパートナーシップを強化した。

### ● 中国大使、モーリシャス報道陣と会見

11月4日、駐モーリシャス中国大使館は黄大使(Ms. Huang Shifang)の主催により、現地報道関係者を招いたレセプションを開催した。本行事は中国とモーリシャスの対話・協力強化を目的とし、相互利益をもた

らす開発イニシアチブを強調するもの。黄大使は挨拶の中で、両国の強固な友好関係を称賛し、モーリシャスが「一帯一路」構想により積極的に参加することを期待すると述べた。

大使はまた、中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)を通じた中国とアフリカの協力について触れ、北京で開催された前回のサミットにより、中国とモーリシャスの二国間関係が戦略的パートナーシップのレベルに引き上げられたことを指摘。中国は、特に開発協定、100%の関税ラインに対する免税措置の完全実施、アフリカ製品の中国市場へのアクセス促進などを通じて、アフリカ諸国との経済パートナーシップの強化に引き続き取り組んでいることを示した。

## 経済・経済協力

### ● 草の根・人間の安全保障無償資金協力署名式



11月3日、大使公邸において草の根・人間の安全保障無償資金協力の署名式が行われた。菅正広特命全権大使とモハンマド・サマド・アイオブサーブ・センチュリー福祉協会代表(Mr. Mohummad Shamad Ayoob Saab)が契約書に署名した。センチュリー福祉協会1998年よりポートルイスで特別支援学校及びデイケアセンターを運営し、理学療法・作業療法を通じ、年間約110名の5歳から39歳の障がい者に対し、学習支援・日常生活支援・感覚統合支援・自立支援を無償で提供している。

「シテ・マルシアル区特別支援学校リハビリスペース増築計画」では、51,852ユーロの資金支援により、屋外のリハビリテーションスペース(300m<sup>2</sup>)が増設される。これにより、通所者のニーズに応じた十分な身体リハビリテーションセッションを提供可能となり、精神

的リラクゼーションを支援するためのメンタルケアの実施も確保される。本プロジェクトの実施により、通所者の意欲向上、日常活動への積極的関与の促進、リハビリプロセス全体の効果最大化を図る心理的ケアの提供が期待される。

#### ● Dr. A.G.ジートゥー病院における引渡し式典



(写真提供:INFORMUS)

11月4日、在モーリシャス日本大使館はポートルイスにある Dr. A.G.ジートゥー病院にて、モーリシャス初となる内視鏡超音波診断装置の引渡し式典に参加した。この新装置は、日本の経済社会開発計画(ESDP)の一環として日本政府より寄贈された。式典にはアニル・ベチュ保健・健康大臣、菅正広駐モーリシャス日本大使をはじめ、関係者が列席した。

内視鏡と超音波検査を融合したこの先進技術により、医師は内臓器官や周辺組織を極めて精密に観察できると同時に、従来は開腹手術でのみ可能だったところ、低侵襲手術が可能となる。ベチュ大臣は日本とモーリシャスの継続的な協力関係を称賛し、経済社会開発計画(ESDP)を通じた支援が単なる財政的側面を超え、国家医療制度強化に向けた共通の取り組みの証であると強調した。寄贈された機器が病院の能力を強化し、医療チームがより安全で質の高い医療を提供できるようになった点を強調した。

2022年に署名した経済社会開発計画(ESDP)の一環として、日本政府はモーリシャスの医療体制強化に向け総額 5.5 億円の支援を実施。第 1 バッチでは心エコー装置用超音波診断装置、人工呼吸器、ベッドサイドモニター等を提供した。第 2 バッチには、手術台、麻酔器、シリンジポンプ、に加え、新型内視鏡超音波システムが含まれる。

#### ● マスカレン大学における海洋保護ワークショップ



マスカレン大学は、海洋の持続可能性と海洋生態系保護に関する科学研究と公共政策の連携強化の一環として、「ブルー政策戦略フォーラム：科学から政策へ」と題したワークショップを開催した。本イベントの公式開会式は 11 月 13 日、アーヴィン・ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣(Mr. Arvin BOOLELL)、菅正広・在モーリシャス日本国大使、鈴木康朗・MOL モーリシャス代表をはじめ、公的機関、民間セクター、NGO などの関係者が出席する中、開催された。

鈴木氏は、MOL モーリシャスにおける取り組みとパートナーシップについて発表した。同社は環境影響をさらに抑制するため複数の自主的取り組みを実施するとともに、ステークホルダーと緊密に連携し、海洋生態系保護に向けた国際的努力を支援していると述べた。さらに、一貫性のある効果的な政策と意思決定を確保するため、研究を国家の優先事項と整合させる重要性を強調した。

#### ● フマキラー社、モーリシャスで新たな高効率エアゾール製品を販売

11 月 18 日、害虫駆除分野のグローバルパイオニアであるフマキラー社は、ポートルイスにあるライ・ミン・レストランで開催された発表イベントにおいて、新たな高効率エアゾール製品を発表した。式典には A.E.L. Man Hin & Sons Ltd のティエリー・リウ・マン・ヒン CEOをはじめ、フマキラー・ジャパンの幹部らが出席。1874 年の創業以来の長い歴史と、人命と環境を守るという企業理念が紹介された。

展示された製品は、昆虫への迅速な付着と即効性を保証する先進的な粒子制御技術を採用。さらに、握りやすいプレミアムなダブルキャップ設計と、従来の殺



虫剤の刺激臭とは対照的な優しいオレンジの香りを特徴としている。同社はさらに、改良版フマキラー・ベイプのブリスターパック(現在発売中)と 2026 年発売予定の補充液という 2 つの新製品を発表。いずれもモーリシャス国内では A.E.L. Man Hin & Sons Ltd を通じて販売される。

## ● モーリシャス、2026 年に米アフリカビジネスサミット開催へ



(写真提供: L'express.mu)

モーリシャス政府とアフリカ企業協議会(CCA)は 12 月 1 日に共同記者会見を開き、2026 年 7 月 26 日から 29 日にかけてモーリシャスで「米国・アフリカビジネスサミット 2026」を開催することを正式に発表した。米国とアフリカの経済関係強化を目的としたこの旗艦イベントが同国で開催されるのは今回が初めてとなる。

サミットには政府高官、民間セクターのリーダー、投資家、多国間機関の代表者など 3,000 名以上が参加し、4 日間にわたり全体会議、ハイレベル対話、セクター別議論、企業間交流が行われる見込み。

ラングーラム首相は今回の発表を歓迎し、モーリシャスがアフリカと世界を結ぶ架け橋としての役割を再確認するとともに、投資と経済協力促進に向けた戦略的パートナーシップ構築への同国の取り組みを強調した。

## ● モーリシャス・ルピーの動向

モーリシャス中央銀行のデータによると、2024 年 10 月から 2025 年 10 月にかけて、モーリシャス・ルピーは米ドルに対して概ね安定し、0.3%のわずかな変動を記録した。一方、輸入コストや貿易全体の動向に影

響を与える他の主要通貨に対しては様々な動きを示した。

モーリシャス・ルピーは、オーストラリアドル(+1.7%)、インドルピー(+1.9%)、ニュージーランドドル(+3.8%)など、いくつかの通貨に対して上昇し、消費者にとって一部の輸入品のコストを緩和した。しかし、ユーロ(-2.3%)、英ポンド(-2.6%)、日本円(-2.6%)、スイスフラン(-5.1%)に対しては下落し、この傾向は特定の輸入品価格の上昇につながる可能性がある。

## 安全保障

### ● 第 8 回ジブチ行動規範・ジェッタ修正条項に関するハイレベル会合(モーリシャス開催)

海洋安全保障に関する主要フォーラムであるジブチ行動規範のジェッタ修正条項の実施に関する第 8 回ハイレベル会合が 11 月 12 日から 14 日にかけてフリックアンフラックのヒルトン・モーリシャス・リゾート&スパで開催された。アーヴィン・ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣、ファブリス・ジル・ダヴィッド同省閣外大臣(Mr. Fabrice Gilles David)が、全代表団の出席のもと開会式に出席した。

ジブチ行動規範は、ソマリア海賊の脅威への対応として、国際海事機関(IMO)の支援のもと 2009 年に発足した。2017 年のジェッタ改正により、同規範の適用範囲は拡大され、人身取引、違法密輸、違法・無報告・無規制(IUU)漁業、環境違反など、より広範な越境海上犯罪に対処するようになった。ハイレベル会合では、海洋安全保障戦略について加盟国とドナーパートナー(日本を含む)の共同努力における連携の必要性が再確認された。

## ● アルファ・ブレイブリー号にからの記録的大規模の麻薬押収



(写真提供:ION ニュース)

11 月 7 日、前例のない作戦と史上最大の押収量となる約 400 キロのコカイン(推定市場価格 45 億ルピー超)が、ブラジルからシンガポールへ向かう途中にモーリシャス海域で拿捕されたギリシャ船籍のアルファ・ブレイブリー号船内で発見された。救命胴衣に隠された麻薬は、船の機関室で乗組員によって発見され、押収後中央警察署へ搬送され公式計量が行われた。同船は 11 月 14 日、鉄鉱石を積載した状態でシンガポール向けに出港し、その後中国・青島港へ向かうことができた。麻薬・密輸対策班(ADSU)は、24 名の乗組員の中に船内機関室で発見された 15 袋の隠匿に関与した者がいるかどうかを調査中である。

## スポーツ

### ● 2025年IBA世界選手権:モーリシャス人ボクサー4名がドバイへ



(写真提供:Le Mauricien)

モーリシャスのボクサー4 名が、12 月 2 日から 13 日まで開催される国際ボクシング協会(IBA)世界選手権に出場するためドバイへ向かった。ファブリス・ヴァレリー(Fabrice Valérie, 51kg 級)、フランシス・ギヨーム(Francis Guillaume, 54kg 級)、ニヴェン・チェンベン(Niven Chemben, 57kg 級)、メルヴェン・クレール(Mervin Clair, 75kg 級)が本大会に出場。リチャード・

スニー(Mr. Richard Sunee)がナショナルコーチとして 2 度目の国際大会指揮を執る。

### ● サイクリング - アフリカ・サイクリング・エクセレンス・アワード 2025:キンバリー・ル・クール・ド・ピロット＝ピエナールがアフリカの女王に輝く



(写真提供:DefiMedia)

12 月 3 日、モーリシャスの自転車選手キンバリー・ル・クール・ド・ピロット＝ピエナール(Ms. Kimberley Le Court de Billot-Pienaar)が、今季の活躍により女子エリート部門で「アフリカの女王」に輝いた。このプロ選手は 2 つの個人賞にノミネートされており、女子ヴェロ・ドル賞の最終候補 10 名に選出されるとともに、2025 年アフリカ・サイクリング・エクセレンス・アワードの「最優秀女子エリート選手」部門にも選ばれた。アフリカ自転車連盟(CAC)主催による初の大規模サイクリング表彰式は、11 月 28 日・29 日にルワンダのキガリで開催された。競技上の都合により式典への出席が叶わなかった同国チャンピオンに代わり、モーリシャス自転車連盟(FMC)会長マイケル・メイヤー(Mr. Michel Mayer)が出席した。

## 文化

### ● ナターシャ・アパナー、フェミナ賞とゴンクール・デリセアン賞のダブル受賞



(出典:lanouvellerepublique.fr)

フランス在住のモーリシャス人ジャーナリスト兼作家、  
ナターシャ・アパナーは、11 月 3 日にフェミナ賞を受  
賞し、その後 11 月 27 日にはゴンクール・デ・リセアン  
賞を授与された。後者はパリのエリゼ宮殿でエマニュ  
エル・マクロン仏大統領より贈呈された。彼女の絶賛  
された小説『La nuit au cœur』は、著者自身を含む 3  
人の女性が家庭内暴力に苦しむ姿を描いている。

\*\*\*\*\*

#### <大使館情報>

##### 連絡先

住所：Embassy of Japan in Mauritius, Level 6, Tower C, 1 Exchange Square, Wall Street, Ebene, 72201

電話番号：(230) 460 2200, Fax:(230) 468 6612,

E メール:japanembassy@mx.mofa.go.jp

当館ホームページ: [https://www.mu.emb-japan.go.jp/itprtop\\_en/index.html](https://www.mu.emb-japan.go.jp/itprtop_en/index.html)

当館フェイスブックもぜひご覧ください! <https://www.facebook.com/JapanEmb.Mauritius/>

当館活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

##### 【領事班からのお知らせ】

●モーリシャスに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください!

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

\*\*\*\*\*